

CHANGE!

令和 2年5月14日

練馬区立泉新小学校

5年学年便り 5月号

ステイホーム週間が終わり、やっと時間が動き出したと感じる毎日です。日ごと暑さを感じるようになり、季節は春から初夏へと大きく変わってきました。

5月末まで休校期間がのびることとなり、ご家庭でもご心配や不安が高まっていることと思います。

以下を参考に、もう少しの間、子供たちを励まし、学習に向かわせていただくよう、ご協力をお願いいたします。

学習の遅れが心配 ⇒ 自主学習の習慣を身に付ける練習期間

一部、塾などで学んでいる子いるとは思いますが、ほとんどの子供たちは、4月中は同じ状況にいます。今は、学習を進める、というより、「自主学習の習慣を身に付ける練習期間」と捉えて、学習習慣が乱れがちな子供には、
・その日の課題が終わったらほめる
・机の前に15分でも座れたらほめる
のように、学習態度そのものを励まし、習慣として身に付けられるようにしてあげてください。

子ども自身で学習リズムが作れない

- ・いつ、どのように、何を学習したらよいか分かるように、「家庭学習のてびき」と「家庭学習計画&チェック表」を作りました。自分で計画を立てられない時は、この表を参考に組み立ててみてください。
- ・それぞれの課題は、30分以内に終わるように作っています。課題が終わったら、残りの時間は自由に使って構いません。
- ・早く終わらせるために、答えを見ながら問題を解く、やっても答え合わせをしない、とばしてやる、などはNGです。キチンとやれているかどうか、ときどきチェックしてあげてください。

子どもが一人で苦手を克服するのは難しい

- ・当然です。苦手な科目は、最低限やるべきことをやっていけばよいことにして、むしろ、得意分野を伸ばすよう、励ましてあげてください。
- ・また、新しい内容で、分からないところがあり、それ以上進めない場合は、「何が分からないか」をはっきりとさせて、プリントやノートに書いておくようにすると、取り組むべき課題がはっきりします。

以上のほかに・・・

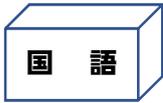
●ドリルやワークプリントで、「間違いを見付ける力」を育てる

学習が苦手な子は、ドリルやプリントをやってもやりっぱなしになりがちです。だから、同じ間違いを繰り返すのです。必ず、答え合わせをして、自分で間違いを見付けることそして、できるまでやり直すことが大切です。この「間違いを見付け、自分で直す力」を身に付ければ、中学・高校の受験も、自分で乗り越えていくことができます。

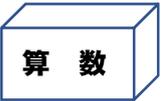
●自主学習も「探求型」で

学校の課題を午前中に終わらしたら、午後は、自分が「調べたいこと」や「思い切りやりたいこと」の時間にあてましょう。(裏に参考となるメニューを載せておきました。)そして、それをやって考えたことを、文章、表、グラフ、写真や絵、音楽など、自分の表現したい方法で表現させてください。

『自主学习』の選択(せんだく)メニュー(例)



- ① いろいろな種類の本を読んで、感想を書く。
- ② 気に入った詩や文章を視写(ししゃ)したり、暗唱(あんしょう)したりする。
- ③ 熟語や短文を作って、漢字練習をする。
- ④ 辞典を使って、語句の意味や、故事成語(格言・ことわざなど)の意味を調べる。
- ⑤ 詩や小説・意見文などを、自分で書く。



- ① 学校で学習したことを復習する。
- ② 教科書やドリルの問題文を写してから、式や考え、計算や答えを書く。
- ③ 自分で文章問題を作って解く。
- ④ 定規(じょうぎ)や分度器、コンパスなどを使って作図し、面積・体積・角の関係などを理解する。



- ① 社会の教科書を声に出して読み、要点や用語・資料から読み取ったことなどをノートに書いてまとめる。
- ② 理科の教科書を声に出して読み、要点や用語などをまとめるとともに、実験・観察の手順や 器具の使い方、結果の予想や考察などを、絵や図・文章に書く。
- ③ いろいろな教科に関わる内容について、さらに調べる。
(インターネットや図書館の本などを利用して、分かったことをまとめる。)
- ④ 新聞の切りぬきなどの資料を集め、ノートなどにはる。
(新聞の名前・日付・その記事に対する考えや感想なども書いておく。)
- ⑤ 日記を書いて、一日をふり返る。
- ⑥ 自作の料理に挑戦し、作り方や工夫したことをノートにまとめる。
- ⑦ インターネット「子供の学びおうえんサイト」から、やり方を選んで実際にやってみる。結果からわかることをノートにまとめる。
- ⑧ Eテレの番組を見て、はじめてわかったこと、考えたことをノートに書く。

お米の苗について

5年生では、社会科・総合的な学習の時間の両方に関わる学習の一環として、バケツ稲を育てます。本来は学校で農家の方に育て方を教えてもらいながら行いますが、今年は各ご家庭で育てていただければと思います。

お渡しした苗は、そのままペットボトルで育てることもできますが、可能であれば、バケツと土を用意して(以下を参考に)移し替えていただくと、より、収穫量の多いお米が育ちます。お手数をおかけしますが、ご協力をよろしくお願いいたします。

- ・バケツ(9.5リットル以上の大きさのバケツ・直径が30cm以上あるものがお勧め)
- ・土(1バケツにつき7リットルを目安。「黒土」、「赤玉土」、「鹿沼土」を6:3:1の割合で混ぜたものが理想です)
前年度にバケツで稲を育てた場合には、その土をそのまま使用可能です。その際、茎などは取り除いておいてください。
- ・水場(水道以外にもホースやじょうろがあると便利です)

